

平成29年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : オホーツク地区
2 事例報告学校名 : 美幌町立旭小学校
3 報告者 : 校長 寺嶋 誠也
4 キーワード : 「特色ある学校」から「コミュニティ・スクール」へ
-

1 はじめに

美幌町はオホーツク管内の内陸部に位置し、人口2万の農業を基幹とした交通の要所にある町である。周辺の小規模校は統合・閉校し、旭小学校は町内にある小学校3校のうち、規模が一番小さい学校である。児童数234名、学級数は普通学級8学級、特別支援学級4学級と、ここ数年、学年の児童数が40名を切り、学級数が減少している。

さて、美幌町教育委員会として平成31年度からコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度を導入した学校、以下CS）をスタートすべく準備を進めている。CSの構想や進め方についてはこれから議論が始まるところである。

この稿では、学校の特色を学校運営協議会制度につなげていく方策について考えてみた。前半は実践事例であるが、後半は学校の特色をCSに反映する手だてを探っていきたいと思う。

2 学校の特色として

学校を取りまく、人、物、環境、気候など、教育活動に有効に活用できるものを、地域の教育資源と呼ぶことにする。外部講師や団体などの人、学校の近くの河川や林などの環境、またグラウンドのスケートリンクや町内のスキー場を考えると、北海道ならではの寒い気候も教育資源と考えることができる。

この教育資源を活用し、教育課程に有効に位置付けながら教育活動の効果を高めていくのが本校の伝統となっている。学校の中だけでできない体験や学校の教職員だけではできない活動を行い、学校外の活力を学校に取り込むことで充実した教育活動としていくという考え方である。学校支援地域本部事業が創設された時期から続いていると考えられる。

3点の事例を紹介する。恐縮であるが「読み聞かせサークル」「諸施設を見学」「文化団体からの講師派遣」「体育協会や連盟からの外部講師」「福祉団体や農業・漁業団体と連携や体験」などは、他の学校でも数多くなされている実践と思うので、私が珍しいと考えた取組（他校では少ないと思う取組）の紹介である。

美幌博物館との連携【写真：下】…外部講師として6名の学芸員が活躍している。生活・総合の他に理科、社会でも教育課程に位置付けた体験的な活動を行っている。





PTA役員OBの会【写真：左】…教育課程外の教育活動として工作教室や季節の行事（盆踊り教室）を行っている。



企業の社会貢献との連携【写真：右】…航空会社が創設した大会に協賛している。昨年度は本校チームが全国優勝した。

3 CSに向けて

本校の特色ある教育活動を、CSのどの側面に活用するのが効果的であるか。

そもそも、学校運営協議会の設置と運営は、実質的には学校に委ねられる形態が多いと思われる。協議会規則の制定や委員の任命は教育委員会で行われるものの、協議する内容の設定や会議の主宰、会場や資料等の印刷物の準備は学校側（校長や地域連携担当教員）が主導することとなるであろう。

なぜなら、学校運営協議会を準備するとしても、主導する人材や、事務局を担当する人員が学校外にちょうど都合良く見つかるケースは少ないと思うからである。そうなれば学校としては、学校運営協議会の在り方を十分理解して大いに活用すべきだと考える。CSの積極的な運用を考えると、学校運営協議会を学校と切り離された形ではなく、学校内部に含んだ組織ととらえるのが得策であろう。

学校として協議会の利点はどこにあるのか。それは、まずは地域や保護者の学校に対する理解の促進、支援の要請であると考えて、その活用を図りたい。場合によっては協議会を通し教育委員会への申し出も有効であろう。

このように考えると、校長の考える学校経営の実現手段とするには、校長として協議会と連携するのは勿論であるが、委員に経営理念と方針の理解を得られることで、今まで以上に比較にならないほどの力となることが考えられる。反面、学校運営協議会との連携が滞れば、その対応と説明に多大な労力を消耗することになる。

さて、本校の利点を考えた場合、多くの外部人材に恵まれ学校の教育活動が充実していることから、外部人材の中から委員を任命し、様々な協力を仰ぐことが可能となる。つまり、学校に協力してくれる人材豊富な地域の特色が、今後も有力な学校支援の人材確保や組織づくりの仕組みへとつながっていく。

委員には学校が果たすべき社会的な役割についても、理解を深めていただく必要がある。新学習指導要領が実施される時期であり、学校としては、その責務を果たすことが最重要課題となってくる。課題点は、委員の願いや思いのアイデアをもとにした教育内容や行事を全て実現しようとする、教職員の負担が増える場合があることである。

4 おわりに

まだまだ試案の段階であり、準備会議が始まるころである。導入にむけて、CSの課題の解消を図り、教育活動のさらなる充実を図っていきたい。